令和5年9月18日(月)通巻1847号　昭和47年12月11日第3種郵便物認可 毎週月曜日発行(第5月曜日休刊)

2023年 9月18日 No.1717

週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION　http://www.kyoiku-shiryo.co.jp

潮流

「こどもまんなか社会」実現へ国民運動を

日本再生てらこや・全国ネットワーク世話人　土居征夫

資料

令和6年度概算要求のポイント

――文部科学省

CONTENTS

▶2 潮流
「こどもまんなか社会」実現へ国民運動を
土居征夫(日本再生てらこや・全国ネットワーク世話人)

▶5 解説・ニュースの焦点
○外部人材活用事業で2次公募――文科省
○留学派遣・受け入れで教育未来創造会議が工程表
編集部

▶8 学校と働き方をアップデートする
働き方改革「急がば回れ」
妹尾昌俊(教育研究家、一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事)

▶10 探究の学びをどう進めるか
高校での教育課程改善の視点から
編集部

▶12 新しい管理職像を求めて――管理職選考への対応
管理職の立場から論ずる
西林幸三郎(大阪聖徳学園理事・教育参与・教授)

▶14 校長講話
生徒会活動の充実に向けて
並木浩子(東京都教職員研修センター教授、東京都・昭島市立昭和中学校前校長)

▶16 実践！ 校長塾
校内研修の質をいかに高めるか②
山本周一(東京都・府中市立府中第一中学校校長)

▶19 資料
令和6年度概算要求のポイント
文部科学省

▶33 Voice

▶35 教育問題法律相談
アウティングとパワーハラスメント
三坂彰彦(弁護士)

▶36 学習指導要領のイデアを実践する
GIGAスクール構想の実際から考える⑧
玉置 崇(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

▶38 私たち、子どもの全力サポーター！
まだまだ性被害について
酒井道子(公認心理師)

▶40 現場アタマでやろうじゃないか
諦める勇気、頑張る勇気
石橋昌雄(立正大学社会福祉学部教授)

▶42 変わる教育委員会
広がる未来の選択肢～しまね留学～③
吉川めぐみ(島根県教育庁教育指導課地域教育推進室調整監)

▶44 現場仕込みのメンタルケア論
職員室の心理的安全性
川上康則(東京都・杉並区立済美養護学校主任教諭)

▶46 2020年代の新・防災教育
「防災の日」から学ばせたいこと
森田泰司(国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター企画課専門職)

▶47 BOOK
『学校がウソくさい　新時代の教育改造ルール』
『母という呪縛　娘という牢獄』

▶48 自著を語る
『リスキリングは経営課題
日本企業の「学びとキャリア」考』
小林祐児(パーソル総合研究所上席主任研究員)

▶51 データで見る教育
学校を取り巻く支援スタッフ等の全体像 ほか

▶52 マイオピニオン
「脱成長」に対応する教育への転換を
合田隆史(尚絅学院大学名誉教授)

潮流

日本再生てらこや・全国ネットワーク世話人
土居征夫（どいゆきお）さんに聞く

東京大学法学部卒、通商産業省生活産業局長を経て退官。商工中金理事、NEC取締役・執行役員常務、企業活力研究所理事長、城西国際大学特任教授を経て、現在武蔵野大学客員教授、一般社団法人世界のための日本のこころセンター代表理事、公益財団法人国策研究会理事長。本年立ち上げた日本再生てらこや・全国ネットワークの世話人に。

「こどもまんなか社会」実現へ国民運動を

今年の5月に発足した「日本再生てらこや・全国ネットワーク」の世話人として、子ども・家族・社会が一体となった国民運動の展開したい、と言う。

日本再生てらこや・全国ネットワークとは

――今年の5月に、日本再生てらこや・全国ネットワークを立ち上げられ、8月から活動を開始されました。

土居　「日本再生てらこや」とは、①子ども中心の主体的な学びの仕組みを持つ②子ども・親・社会の三者が可能な限り参加者となる③祖先から未来の子孫につながる縦の絆に気づく学びの場である――の三つの要素を踏まえ、「こどもまんなか社会」の実現を目指した国民運動を展開しようというものです。今年の5月にこども家庭庁などの後援をいただき、37団体が参加する大会を開催し、参加団体の合意に基づいて、8月には広く社会に発信するためのホームページの運用を開始しました。

――「こどもまんなか社会」の実現のためには、何が必要とお考えですか。

土居　若い親世代が子どもを産み育てるという前向きな気持ちになって、子どももまた目を輝かせて育つようになる環境を、広く全国に整備していくことが必要です。そのために、明治以前まで、日本人の人格の基礎教育を担った寺子屋システムの再興を図り、子どもと家族と社会が混然一体となって、子ども

の成長を見守る新たな仕組みを構築する必要があると考えています。

学校や家庭だけでなく、企業なども含む社会全体や地方自治体なども参画できるような取り組みも必要です。例えば、企業は「企業版ふるさと納税」（地方創生応援税制）の仕組みを活用して、地方創生につながる取り組みを寄付などで応援し、地方自治体も、日本再生てらこやの活動を事業化することで、地域の子育て環境を豊かにしていくことを目指します。こうした取り組みを一部の地域だけでなく、日本全国に広げていきたいと思います。

――「日本再生てらこや」の三つの要素がなぜ大切なのでしょうか。

土居　今の日本には、社会環境の変化や核家族化のために孤立しがちになっている若い親世代が増えています。子どもだけでなく、親世代にも「こころ」の成長のために一緒に学び合って、前向きに生きる力が獲得できる場が用意されることが必要ではないでしょうか。同時に、人づくりの視点からすると、子どもの頃から、「過去に学ぶ生き方の学び」であるリベラルアーツ学習も不可欠です。すでにこうした問題意識で活動を続けている団体が全国にあるのですが、それを組織化していこうというのが「日本再生てらこや・全国ネットワーク」です。互いに協力し合って、切瑳琢磨しながら、各団体のつながりや連携を生かして、「日本再生てらこや」の活動を進めていきたいと考えています。

世代を超えて社会人と共に学ぶ仕組みを

――具体的な活動は、これからのようですが、どのような学びの機会を想定しているのでしょうか。

土居　私たちは、子どもや若い親世代が元気を出せるように、次の五つの活動を進めたいと考えています。①世代を超えて、家族・社会人と共に学ぶ仕組み、多様な学びの環境を広げる②歴史物語や祖先の生き方（偉人の話）、年中行事、昔話、童謡や日本の歌、和食や日本語の豊かさなど、これまで学校では気づく機会が少なかったことを学べる機会を増やす③「智徳体」の三位一体の学習、特に徳育の面で大きく貢献できる学びの場を提供する④親の世代の気づきや学び直しにも貢献する⑤講師や補助者に高齢者や社会人、若者などが参加することで、生きがいや新たな雇用機会の創出につながるようにする――などです。

――8月に、情報提供のためのホームページを開設されたとのことですが、どのような内容ですか。

土居　現在のところ、お知らせの一覧や「日本再生てらこや・全国ネットワーク」の概要、これまでに開催したイベントなどの内容、地方創生ＳＤＧｓマッチング、参加団体の一覧、お問い合わせ、などです。

このうち、地方創生ＳＤＧｓマッチングについては、今後、大きく広げていく予定ですが、先ほど説明した地方自治体や企業などが参画できる仕組みの一つです。ＳＤＧｓの目標の中には、「健康と福祉（ＳＤＧｓ３）」や「みんなに教育（ＳＤＧｓ４）」などがありますが、地方自治体が実施主体となり、民間の企業は企業版ふるさと納税制度を活用して「日本再生てらこや」の普及に取り組むことで、これらの目標に貢献します。

例えば、地方自治体から「日本再生てらこや」の設立や運営の支援などの希望がある場合、私たちの全国ネットワークが関係する民間企業に地方自治体への寄付の可能性を打診します。マッチングが成功したら、企業は地方自治体に対して企業版ふるさと納税制度による寄付を実施し、地方自治体は納税額の範囲で地域の「日本再生てらこや」の設立や運営のための費用の一部を支援します。なお、地方自治体が支援する当該地域での「日本再生てらこや」は、新しく全国ネットワークの

会員として登録し、情報を発信してもらいます。なお、この「地方創生ＳＤＧｓ事業マッチング構想」については、内閣府の地方創生ＳＤＧｓ官民連携プラットフォームに登録されています。今後、秋頃にも、地方自治体の会員と企業版ふるさと納税制度を希望する企業の事例報告やマッチングを進めるための情報交換などのためのイベントを企画しているところです。

学校でも活用を

――学校の先生方にアピールしたいことは何でしょうか。

土居　私たちの全国ネットワークに登録していただいている多くの団体は、地域の子どもたちの成長につながるような活動を多様に展開しています。学校の勉強とは違って、自分のやりたいことや調べたいことが活動の中心ですので、とても主体的です。私は静岡県の裾野市で「Ｚｅｎ（禅）」を体験する活動にも関わってきましたが、若い人でも、「Ｚｅｎ（禅）」に興味を持つ人が増えていますし、最近では、外国の人の参加も多いです。私自身も若い頃から座禅に親しんできた経験から『マンガでわかる禅の智恵』（日本能率協会マネジメントセンター）を出しました。

また、「自啓共創塾」という日本型リベラルアーツを学ぶ私塾には、高校生などの若い世代も参加しています。ただ、学校以外で、自分が興味のあることを探究したり、体験したりできる機会がまだまだ少ないですし、まず、どこにどんな活動があるのかが分からないという現実があります。

そこで、今後は、私たちのホームページで、さまざまな活動をしている団体について先生方にも知っていただき、学校外でも、さまざまな学びの場や機会があることを、子どもや保護者などに伝えていただければと思います。

例えば、「自啓共創塾」に参加している北陸地方の高校生は、歌舞伎に興味があって、地域の活性化につなげたいという希望を持っていましたが、同じことに興味を持つ同世代の若者がいれば、元気が出てくるのではないでしょうか。最近は、オンライン形式での実施形態もありますので、全国どの地域からでも参加できます。学校でも探究的な学びが進められているようですが、自分で調べて、自分で考える「自調・自考」の機会になるのではないでしょうか。

――「てらこや」という名称はありますが、参加している団体の中には、母親の子育て支援や情報交流などを目的にしているものもありますね。

土居　そうですね。「母親の学びコミュニティー」という活動をされているお母さんもいますし、最近、参加した株式会社コペルは、国の内外に５００近い教室で徳育にも力を入れた幼児教育に取り組んでいます。

例えば、学校の先生方で、部活動などで伝統芸能関係の活動を指導されているのであれば、部活動単位で登録していただき、活動内容を発信していただくと、その分野の専門家や別の地域で活動している人から問い合わせがあるかもしれません。無償で提供しているサイトですので、活用していただければと思います。今後は、学校のある市町村の近くで活動している団体などが検索できて、連絡が取れるような仕組みも検討したいと思います。

子どもや保護者だけでなく、先生方自身も新しい学びの機会や情報が得られると思いますので、ぜひ、一度、ホームページを見ていただきたいと思います。

日本再生てらこや・全国ネットワーク＝https://www.nihonsaisei-terakoya.org/